

「出雲農林高校 耕魂五箇条」

1学期の終業式の折に私がみなさんに話したことを覚えているでしょうか。桃太郎の話をし、幸運を得るために毎日川へ洗濯に行ってほしいという話をしました。夏休み中、みなさんは毎日欠かさず川へ洗濯に行ったことと思います。みなさんのいろいろな場面での頑張りは私の耳にも入ってきています。

高校野球、インターハイ、総文祭、意見発表会、プロジェクト発表会、各種競技会などなど、みなさんの様々な場面での活躍を心から讃えたいと思います。

また、ボランティア活動にもたくさんの方が参加をしてくれました。保育園や老人ホームでのボランティア、家庭科クラブのトイレ掃除、心ある生徒諸君の校内清掃などなど、まさしく川に洗濯をしに行くがごとく、特別なことではなく当たり前のことのよう、人のために汗がかけるみなさんは素晴らしいと私は思います。実は、先生方の中にもみなさんのために汗をかき、3年生の教室のペンキ塗りをしてくださった先生方がいらっしゃいます。出雲農林の教職員は、常にみなさんとともに汗をかいていることも忘れないでほしいと思います。

8月21日に行われた中学生向けの1日体験入学でも多くの方が協力してくれました。中学生の世話をするみなさんの姿は自信に満ちたものでした。これも日頃の学習活動、部活動、挨拶・掃除・整理整頓といった凡事徹底の精神が一人一人の中に浸透してきている証拠であろうと思います。

今日は、2学期の始まりに当たり、これまでみなさんにお話ししてきたことを、出雲農林高校「耕魂五箇条」としてまとめました。この2学期を充実期ととらえ秋の収穫が実り多いものにしてほしいと思います。

*スライドをお願いします。

一つ目は、「汗をかけ」ということです。このことについては、4月当初からお話してきました。ひたむきに努力することなしに成功はありません。

二つ目は、「常識を学べ」ということです。教科書に書いてあること、実習で学ぶこと、挨拶・掃除・整理整頓・時間厳守といった世の中の常識をしっかり学ぶことはスタートラインに立つということです。これを抜きにして進歩はありません。

三つ目は、「経験を積み」ということです。教科書で学んだことを実際に栽培・育成・製作してみること、校内・校外で販売してみること、研究すること、研究したことを発表してみること、先生となって小中学生に教えてみることに、こうした経験を積むことによって確かな知識を、確かな実践力を得ることができます。

四つ目は、「常識を疑え」ということです。スライドを見てください。まずは常識を学ぶところからです。

- ・ トマトは1株から1年で何個収穫できるのでしょうか？
→ 約80個です。これは常識として学ぶことです。
- ・ それでは、本当に80個以上収穫することはできないのでしょうか？
- ・ このスライドは、「協和株式会社」がハイポニカ事業で育成したトマトですが、1株で17,000個収穫できるそうです。

最後は、「チャレンジせよ」ということです。常識にとらわれることなく、自らの可能性に限界を設けることなく、失敗を恐れず、チャレンジすることです。勝てないといわれていてもチャレンジすることです。その課題は解決不可能と言われていてもチャレンジすることです。

「見つけよう、自分の力の可能性」これは、出雲農林高校のキャッチフレーズです。2学期はみなさんがチャレンジする場面が様々あります。体育祭、農業クラブ全国大会、国体、選手権、農業祭、そして日々の学習。しっかり常識を学び、その常識を疑い、チャレンジしてみてください。